

長野県を襲った

ひっじ

「未の満水」以来の未曾有の大災害



大鹿村の行方不明者の搜索

死者・行方不明者 136名 被害総額 約341億円。

昭和36年(1961)6月、伊那谷は未曾有の大災害に襲われました。天竜川流域の各地で大雨により土砂崩れなどの災害が発生し、その数は伊那谷全体で1万箇所を超えたと言われます。また、土砂の流入により河床が上昇し、天竜川本川、支川の各地で堤防の決壊や氾濫による浸水被害が発生しました。

伊那谷では道路網が寸断し、孤立する集落が続出しました。電気や水道は止まり、輸送の大半を担っていた飯田線などの鉄道も不通となったことから食料の供給もままならない状況の中、人々は恐怖に震えながらの避難生活を余儀なくされました。この一連の災害で長野県では死者・行方不明者136名、浸水戸数18,488戸、被害総額は約341億円(現在の価格に換算すると約1,224億円※)に及ぶ甚大な被害となりました。

※「被害総額(現在の価値に換算)」の算出にあたっては、「治水経済調査マニュアル(案)」各種資産評価単価及びデフレーター(令和2月4月改正)国土交通省水管理・国土保全局河川計画課第12表 総合物価指数(水害被害額デフレーター)令和1年(推)の指数を適用した。